

# 今月の一句

## 年明ける

としあける

かくて明け行く空の気色、昨日に變りたりとは見えねど、ひきかへめづらしき心地ぞする。大路のさま、松立てわたしはなやかにうれしげなるこそ、またあ

はれなれ。

(こうして元旦のあけてゆくあたりの様子は、昨日と変わっているとは見えないが、まるで変わってしまったようで、珍しい心地がする。都

らない。一年間に

二十四の節目(二十四節氣)を設けて、時の流れを感じてきた日本人の心を大切にしたい。いつ年が明けたのか、いつ夏になったかも分からず

### 酒もすき

### 餅もすきななり

### 今朝の春

虚子

ものだ。

大路の様子も門松を立てて、はやなかにうれしそうな感じがするの、また趣深いものだ

これは、『徒然草』の一節である。元旦の気分は今も変わ

に節目のない生き方はいかげなものか。せめて正月三が日ぐらいは、家族そろってこの一年を振り返り、新たな一年のつ

つがなきを祈りつつ心静かに過ごしたい

火の島も

今年の色に

輝けり

秀邑

